～文化の風が吹くまち　ちくしの～

文化薫道

◆其の七十九

ちくしの市民第1号

わたしたちが暮らす筑紫野市。この地に最初に住み始めたのは、どのようなヒトたちで、いつごろのことだったのでしょうか。

市内の大字原では、約8000年前に縄文人が造った「炉」が見つかっています。丁寧に石を組んだ造りから、この地で長く生活を営んだものと考えられます。

縄文人は、「土器」の発明により「煮炊き」という新しい調理方法を手に入れます。水と一緒にさまざまな食材を加熱できるため、食料の選択肢が増え、栄養を効率良く摂取できるようになると共に、衛生面の向上も期待できました。この調理の場となったのが「炉」で、「火」をうまく制御することで燃料効率や安全性を高めています。

縄文時代の石組炉(原遺跡)

食材の幅が広がると、同じ場所に長く暮らしても食べるものに困らなくなり、人口も増えていきます。やがて竪穴住居を住まいとし、集落をつくり、まとまって暮らすようになったのです。

こうして、土地に根差した暮らしを始めたヒトたちの痕跡、その中でも市内で最も古い時代のものであることから、この石組の「炉」を造り、「ちくしの」の地に確かな足跡を刻んだ縄文人一家を、「ちくしの」市民第1号として認定したいと思います。

問 文化財課

発行／筑紫野市　編集／秘書広報課　ホームページ／https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/
〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎一丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(923)5391
印刷／久野印刷株式会社
発行部数／43,600部

筑紫野市フェイスブック
https://www.facebook.com/ChikushinoCity/
筑紫野市ツイッター
https://twitter.com/ChikushinoCity/
筑紫野市LINE公式アカウント
https://lin.ee/6X9wMoy